

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第151号 平成30年8月1日発行

発行所：旭労災病院
〒488-8585
尾張国市平子町北61番地
TEL 0561-54-3131
FAX 0561-52-2426
<http://www.asahih.johas.go.jp/>

本年度の猛暑における当院での熱中症、腎機能の状況

腎臓内科部長 市川 匡



本年度は例年と比較しても、気温の高い状況が続いており、当院救急外来での熱中症患者の状況および現状につきご報告をさせていただきます。

7月1日から環境省が暑さ指数を提示している8月18日までの当院救急外来に受診された熱中症患者数を集計しました。

1.熱中症と診断された方

体調不良にて受診、明らかな他の要因がなく、病歴から明らかな熱中症と診断できるもの。

I～III度に分けて集計

- ・患者総数：76名
- ・平均年齢：54.5歳（人数分布は図1）
- ・男女比 2:1
- ・原因
 - 屋外作業（建設業）12件
 - 熱所作業（工場勤務）5件
 - 屋外作業（庭仕事等）16件 スポーツ 5件
 - 外出（買い物 通院）11件
 - 空調不良（エアコン）8件
 - 他疾患合併 8件 室内業務 6件 不明 5件
- ・重症度：I度 1件 II度 38件 III度 37件
- ・治療：入院加療 12件、外来治療 64件



2.環境省が出している暑さ指数と来院患者数を合わせたグラフを作成 (図2)

集計した結果としては7月15日ごろが患者数のピーク、その後は暑さ指数が高くても患者数は3～4名ほど。お盆の時期はお墓参りなどあったのか熱中症患者は増加、その後は搬送なしといった状況となりました。

3.当院での熱中症患者の特徴としては

- ① 各年代で患者は発生、60歳代が一番多かった。これは屋外作業、仕事をされている方が多いためと思われます。
- ② 今までも屋外の仕事をしているベテランの方も熱中症になっている。
- ③ 7月前半から中盤がいちばん患者多く、それ以降は対策をされたのか患者数増加なし。
- ④ 高齢者で空調異常も熱所作業や屋外に出ていない、などリスクの少ない患者でも熱中症におちいるケースがあった。

例年と比較しても暑さ指数が高く、熱中症のリスクは非常に高く空調の軽微な不良でも熱中症におちいるケースが多い。

全国のデータと比較したが、患者数の推移は全国平均と比較して特徴的な地域性は見られませんでした。

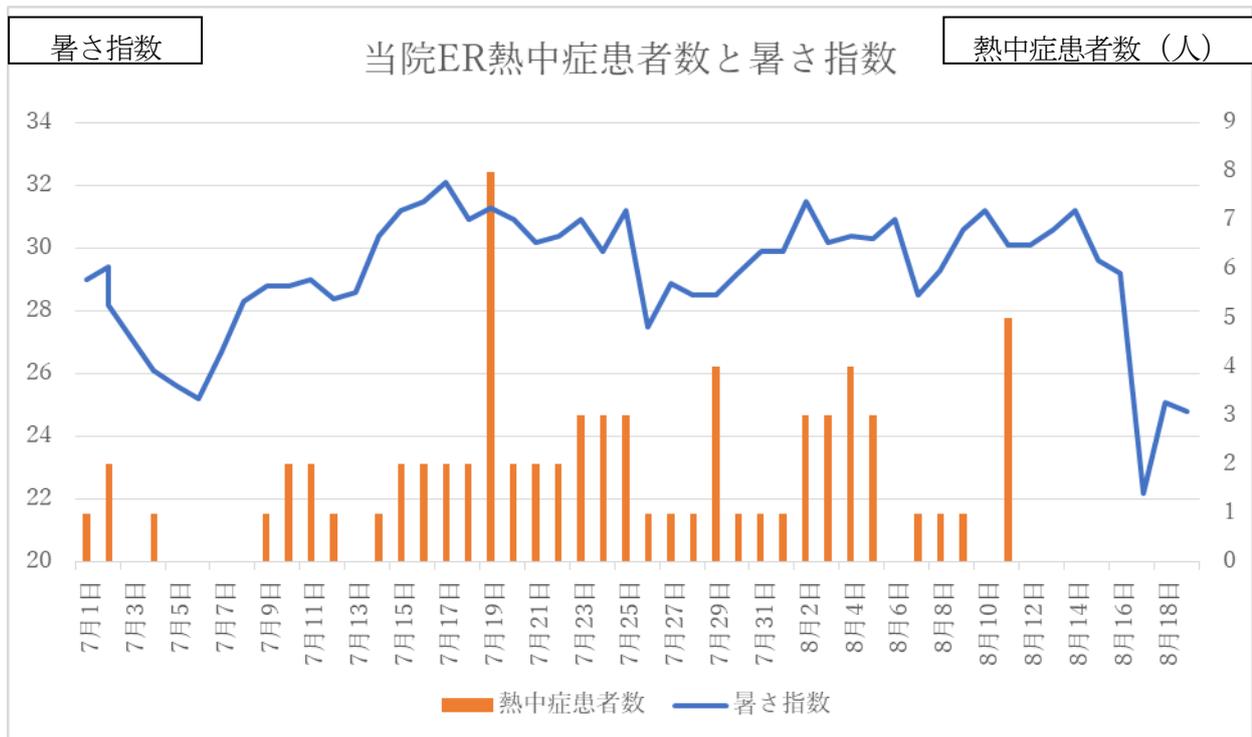
4.熱中症に陥りやすい全身状態や内服薬などあるのか、リスクにつき検討すべく、脱水がデータとして検出されやすい腎機能低下の患者群にて比較を行った。

・患者数： 122名

・抽出基準： 腎臓内科通院中7～8月に受診し、以前からのデータが残っている患者。

平均Cr 2.1 7月以前のデータと比較してCrの推移の差を集計したところ、平均値で0.08の上昇がみられた。Crの上昇がみられたのは122名中40名 肺炎などの他疾患の合併は除外。年代（65歳以上、以下）、腎不全の原因疾患（DM、DM以外）、BMI（25以上、以下）、内服薬（Ca拮抗薬、ARB、スタチン、NSAID、利尿薬）について集計するも有意な相関はみられませんでした。予測ではARB、利尿薬に有意差が出ると予測していましたが。母数がまだ少なく、想定すべきリスク因子につきさらに追加が必要と思われました。

(図2)



今後もまだ暑い日が続く、熱中症になる患者様は多いと思われています。

引き続き、熱中症予防およびご対応のほどお願い申し上げます。対象の患者さんがおみえになりましたらご紹介ください。

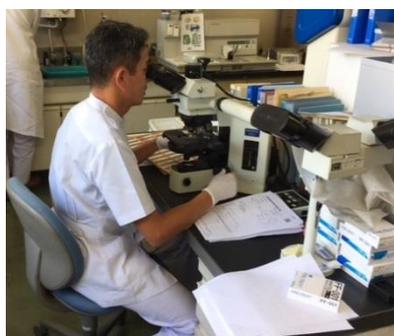
中央検査部病理検査室

術中迅速病理診断について

中央検査部長 谷川 直人

当院では外科手術の執刀中に術中迅速病理診断を行う体制を敷いています。手術中の限られた時間内で迅速的確に病変部の性質、たとえば腫瘍が良性か悪性かなどを決めたり、転移や病変部の取り残しが無いかなどについて調べています。

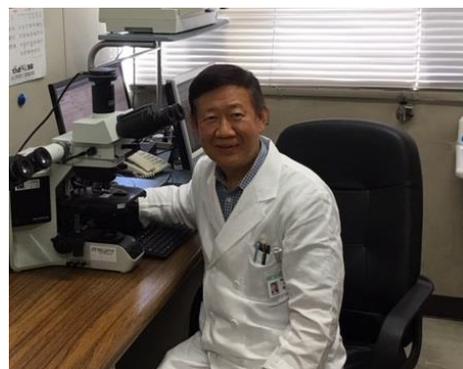
通常の病理診断検査はホルマリン固定からパラフィン包埋、薄切、染色の過程を経て病理医が診断をするまでに2～3日を要します。術中迅速病理診断は特殊なコンパウンドを用い、液体窒素で瞬時に固められた検体をクリオスタット（写真右）という機械で薄切して染色し、診断まで約20分で行わなければなりません。手術の方向性を左右する診断ですので術中迅速病理診断の実施時には病理医にも検査技師にも緊張が走る瞬間です。



手術中の病理診断結果に基づいて手術範囲の決定や手術方法もより適切な選択が期待できると患者様のメリットにもつながります。

乳癌の外科手術ではセンチネルリンパ節を術中迅速病理診断で実施する事で陰性ならば腋窩リンパ節郭清をせずすみ、術後の合併症および上肢機能障害が少なくQOLの向上が見込めます。

術中迅速病理診断の適用は外科医によって判断されます。従って病理医、病理検査技師は外科医と密接にコミュニケーションを取りながら日々の業務をつとめています。



病理診断科部長 小野 謙三

神経内科医師、着任のお知らせ

このたび当院の神経内科外来担当医師が 8 月よりさらに常勤医師、長江 雄二医師が着任となりましたので、ご案内を申し上げます。先生方におかれましては、引き続き当院の各診療科をご活用いただきますようお願い申し上げます。

	月	火	水	木	金
神経内科	長江 雄二	山田 晋一郎	*	長江 雄二	藤岡 哲平

*紹介患者さんは随時対応しますので、病診連携室へご連絡下さい。